磐城之實業

毎月(二回)十日廿五日發行
發行兼編輯印刷人　大和田與平
福島縣平町古鍛冶町九十二　發行所　磐城之實業社　電話五二二番
定價　一部金八錢郵税共　半年分九十六錢　一年分一圓九十錢　廣告料一行五十錢　但指定場所增十錢

本紙の主義信條

●紙は本社の私有にあら●社會共有の公的言論機關也常に紙面を開放して何人の爲めにも其利用を快諾し特に主として實業界の機關となり努めて實益を主眼とす

●本紙は絕對不可侵の權威を以て論議公正にして愚劣無價値の記事を採らず磐城地方唯一の實業機關たるの本領を發揮す之本紙の使命也

弱き女性に同情し所謂情界救濟問責

紙上大演說會

言語に代る無遠慮な筆劍を以す

辯士　磐城之實業社長　大和田與平

義太夫に現れたる女の貞操觀に就て

親愛なる我磐城之實業愛讀者諸君、今回特に一の面全部を要して我輩の女性觀を述べて見たいと思ふのであります、日々の新聞紙上に報道せらるゝ記事で女性に關聯せないものはない位に紙面を賑かして居りますこれは一種の時代思潮の然らしむる處でありましようか昔から女ならでは世の明けぬ國と云つた程、人生の或る程度までは婦人を中心として活躍されてゐます、處で我邦は昔から今日まで依然として民衆音樂の母として流行してゐる義太夫に現れたる女性觀を書いて次號に地方的問題として特に花柳界に及ぼしたいのであります、さて此の一節では義太夫のことのみをお話し申ます、彼の義太夫の「そりや聞えません傳兵衛さん」と聞くとよしやそれが何といふ淨瑠璃にあるかは知らないでも、よく聞いた文句であると感ぜぬものは稀でありますされだけ深く民衆に力強い感化を與へてゐるか推察されるのであります今此の義太夫に出て來る代表的なものを選んで卑見を述べて見たいと存じます。

女の兩夫に見える事は絕對に許されてゐない…よしそれが單に許婚の間柄であらうとも萬一、夫と定まつた男の不幸に遭遇したならば斷じて再緣しないのであります「貞婦兩夫にみえず例ひ夫に別れても又の夫を設くるなよ主ある女の不義同然必ず〳〵寢覺めにも殿御大事を忘るゝな」とは忠臣藏の本藏が娘小波への庭訓でありますしかも夫といふのは單に許婚に過ぎないので本藏はその祝言の到底無事に濟まないことを豫想してゐるのでありますされば娘も亦「去られても殿御の內、こゝで死ぬのが本望ぢや」といふ覺悟をもつてゐます。

婚約といふ事は我が國の民法では規定に認めてゐないそうです從つて婚姻の豫約は法律上では認めてゐないとの事然し最近の判例では相當の形式のある婚約で一般的に首肯される程度のものに對しては漸次認めて來てゐるとの事です義太夫では凡て「太功記」の初菊の場合に於て既に死をもつて貞節を守るべき義務をその妻に課してゐます「三代記」の時姫も同じ思ひに悩んでゐますこんな例を舉げますと殆ど際限がないのであつて時代物でも殊に若き勇士に配せられる美人は多く死をもつて許婚の夫に貞節を守るものと定まつてゐますされば眞の夫婦として一日でも二日でも暮したものが貞操のために死ぬ事は畢竟當然の義務とされてゐます「生爪はいでも夫へ奉公」夫のためならばほゝ笑んで死ぬのが貞女の常の道としてあります「天河屋」のお園も子だになくば甘んじて身を投げたのでありませう「伊賀越え」のお谷は夫や兄の難義を思ふては「劍の上にも寢るのがせめて女房の役」と雪中の凍死をも辭せないのでありますが唯「死にともない生てゐたい—」といふ未練は懷の子を夫に渡すが爲めでありました。

佐倉物吾が女房も若夫婦の間に子だになくば夫の爲めに八裂きも一分試しも毛頭恨みはしなかつたのであります唯微笑んで死ぬといふだけの脚色は謠曲の海女やセックスピア劇のハムレットのオッフエリアなどに見えてゐますが淨瑠璃としては既に用をなしませぬ感が御座いますかの阿古屋の琴責の如きはこれを普通の拷問としては只觀客の感情を刺戟するに足りないといふところから故意とあの樣な奇異な趣向を設けたものであります「妹脊山」のお三輪は「あなたのお爲になる事なら死んでも嬉しい忝けない」と叫びつゝ死んだのでありますこの死を慘憺たらしめてゐますのは唯前段に嫉妬の狂亂があるためであります夫のため死ぬことを常の道としてゐるのでありますから夫が自分と共に死ぬるといふ場合は固より何の怨みもあるべきではありませぬ元祿期に好んで描かれました心中物には男の方は却て「このいとしい者のごとに刃が當てられよう」と逡巡してゐます「早ふ早ふ」と勵ますのは女の常でありますし且大抵の心中物は男の方はよしや戀を捨てゝも或は忠兵衛のやうに封印を切つて委託金を費消したとか「增補天の網島」のやうに相手は戀人ながらも人を殺したといふ切羽つまつた事情があるのであります。こゝが近世の男女關係の最も落明な相違でありませうこの問題を思ひますに唯戀といふ自己の愛着の考へばかりではないので實に夫の爲めに身を捧げるといふ美しい心がかく變形して顯れてゐると考へられます

由來義太夫の女は貞操といふことに關しては一種異樣な考へがあります。それは嚴格に申ますと不義である野合であると稱す樣な間柄でもそれが有夫姦でない限りは必ずしも貞操問題を以て問はれぬことであります例へばお染久松の如きは頑固親父の久作こそは犬畜生と久松を責めてゐますが同情のあるお染の母は奇怪にも「女の道を立て通す娘を叱つて二人の夫、持たすも世間の表向、無理な親じやと必ず怨んでたもるな」など不思議な理窟を云つてゐます、よしや不義でも野合でも既に定まつたものは夫であると斷じてゐますだからお染も唯二人の夫を持たぬことのみを「女の道」と心得てゐます久松が前非を悔て山家屋へ嫁しづく事を勸めると「女の道を背けとは聞えぬわいの胴慾な」など我儘な女の道を並べてゐるやうに見えます抑もお染の樣な徒ら者の口から女の道といふ樣な文句を聞くことは頗る奇異な感じが致しますこれが實際德川後半期の下層社會の一種の道德觀だそうです。

然し斷る考への根本は結婚にも最も當人同志の自由意志を尊重するといふ中古以來の美風から來たものでありませう中古では如何に親々が約束しても男の懸想文に對して女が相當の返事を與へない限りは決して結婚は成立しなかつたのであります義太夫に於ては再緣の戒めの過酷なるに對しまして徒ら者に寬大なのは恐らくこれから來た風俗でありませうそれは遺風で自由結婚といふことは必ずしも舶來の風俗とのみは限らない樣に窺はれます。

こゝに父たる者が身を殺しても娘の戀を遂げさせようとする話が「忠臣藏」の山科にも「鬼一法眼三略之卷」の菊畑にも「箱根靈現」の九段目にも見えてゐます所謂「身の徒らに盡せし不幸、お叱りもなく其の上にお腹まで召し我戀を叶へて給はる冥がなさ」が義理づくめの義太夫に屢々見えてゐますのはさすがに當人の意思の頗る重んぜられてゐたことを認められます。

かく嚴格な貞操は女にのみ强ひられて男に對しては殆ど何の責任をも負はしてゐない樣ですこの點が最も近代の思想と相異してゐます女に貞操を要求するよう當然男も守るべき筈であるのに女をして萬事玩弄物視するとは不合理も甚だしい事であります「千本櫻」の盛卿は「某は國に殘せし妻子あり貞女兩夫にまみえずの理に夫も同じ事と二世の堅めは許してと」さすがに小松內府の殿の嫡子らしい事を言つてゐるがしかも娘の貞操を弄あそんだことは却て親共に對する義理の情と考へてゐるやうです。實に怪しからぬ考へであります我儘は男の假名でありませう不幸なる犧牲は常に女にのみ要求せられてゐます捨てられた許婚や女房も數多い中に最も氣の毒なのは「野崎村」のお光や「酒屋」のお園でありませう彼は嫁はれた夫の爲に緣の黑髮を惜氣もなく斷ちこれも嫁はれた夫の去ることを悲しんで朝夕の箸さへ執らないのであります宗岸の所謂「一旦嫁にやつた娘嫁はれよう何うしようが男の方から追出すまで戾らうなどとは夢にも思ふべきでないとあります否々啻に嫁入したもののみに限らず祝言のすまぬ間柄にも同樣の義務があると信ぜられたのであります女の方にも多少思慕の念があるには相違ありませぬが最も重な動機はこの義務の觀念であつたと思ひますさもなくば貞女の鑑と謳はれないのでありませう悲しむべきは貞女の運命でありまして貞女にとつては死よりも更に甚だしい苦痛は貞操を破ることであります然しこれも亦夫のためなら許されてゐるやうです今の思想から見ますと極めて可笑しい事ですがしかも夫のために操を破る脚色が義太夫には頗る多く扱はれてゐます「白石噺」の亡八の詞の通り「この里に來る奉公人に親孝行か夫の爲でないものはない」といふのが淨瑠璃作者の遊女觀でしたらう。

かの女形の開山と云はれる芳澤あやめは不義の女には決して扮せなかつたとの事でありますこんな風でありますから女の主要な人物は大抵貞女烈婦でなくてはならないのですしかも亦なるべく艷麗な華美な姿で登場させたいのでした昔の遊女の派手やかな打掛姿これでなくては美しい浮世繪は出來ないといふ時勢にあつてはとうしても女の主人公は傾城に限りましたその傾城といふが夫のために身賣りの代金で紛失した寶物を購ふといふ類の趣向の外はこの遊君を烈婦にする方法はなかつたのであります。「忠臣藏」のお輕や「千兩幟」の女房などは初め一切の身賣はかくして描かれたものですその悲劇的な者は「箱根靈現」の初花が母と夫の命をとると脅かされて「我が身」一つは何惜からう只仇敵のために貞操を潰されんことは八裂きの刑にも過ぎざる」と血の淚にむせぶ段や「鰻谷」のお妻が夫の手詰めの金の才覺のために不義者となつて兩夫にまみえ老母と諸共に夫の刃に死ぬる段の如きものです夫のためには尼にもなる死にもするその操を破る更に悲慘なのはその兄にもその親にも背かねばならぬ事であります「十種香」の八重垣姫は父に背いて諏訪法性の兜を盗み出し「三代記」の時姫はおつとのために父を暗殺しようとさえ決したのです恐ろしい女性であると思はれますがこれ等も亦近代の戀愛至上主義と合致します心境でせう義太夫の作者が描いた女性觀が概略左のやうですが一切の理想は皆犧牲的精神から出て來た倫理觀でありますかゝる意味から見ますと兎に角いろ〳〵野卑な點もありますが義太夫も我國の立派な文藝でありまして女大學的に女性を見る時、此の民衆音樂たる義太夫に婦人禮讃たるを忘れてはならないのであります、けれ共近代文藝の少しでもかぢつた新しがりの人々は昨今騎虎の勢で流行されつゝある戀愛至上主義をして如何さなすか?。(ヒヤ〳〵拍手喝采)

新作琵琶歌　さとの花

花の巷にさく花は
八重に一重に黄に赤に
色とりどりに艷なれど
花の心も知る人もなし
聞給へや唄ひ女が
浮世の波にもまれつゝ
棹さすすべもたゞ〳〵に
浮つ沈みつ流れゆく
櫻散りぬる朧夜も
物思はせる秋の夜に
露が雫か袖ぬらす
さとの夕のおもかげよ
よしや苦海に住むとても
雪の肌には赤き血よ
色も戀もそれのごと
吹ば吹くべき花ぞかし
伊達と云字にからまれて
意地や情の世の義理に
人こそ知らね泣く夜半に
すげなく別るゝきぬ〴〵もあり
はかなきものはさとの花
春雨にもゆる若草に
雨と注ぐ人の世の
情に生くるぞ願なれ

謹んで恩人先輩諸君に訴ふ

ペンと算盤を持するの記

大和田與平

教育家たらんとして其の專門教育を授けたるも事志を變じ操觚界に身を投じて既に十有余年、一管の筆に人生の行路を歩み來つゝ昭和二年の櫻花も正に開かんとするの今日、謹で恩人先輩諸君にペンの片手に算盤持つ維新に起つ事の決意を訴へんとす。

自分は靜かに過去を顧みるとき操行の端正ならざるを恥づると共に慘憺たる人生觀に所謂浮世の荒波に飜弄されたるを痛感せずには居られないのであります、無論行き詰まつた現在の社會に於て何れの事業を爲し遂げるにも千態萬樣の波瀾に遭遇し曲折を辿らねばならぬことは當然の過程ではあるが、就中操觚事業の經營に伴隨する困難と艱苦とは實に言語に絶するものが多いのであります、況して自分の如くに裸一貫を以て孤立奮闘し、別して金力の背景もな、權力の後援もなく一足の草鞋と一管の筆とを持して斯界に五尺の短軀を投じ單なる記者生活より微力なりと雖も「磐城之實業」經營兼執筆者の今日に及びたる過般の歴史は全頁涙を以て埋綴するに足る充分の物語りであります。

時には自己の本性を詐りて強硬なる行動を敢てした、又時には理論を度外視し激烈なる筆劍を振つても見た、夫等が基因し囹圄に囚はれる身ともなり危險行爲者とも觀られて社會より敬遠を受けても來た、如何に冷酷氷結の殺人鬼でも靜かに考慮するとき、其所に堪え難き良心の悶へがあらう、麗言壯語を以て僞善を裝ふ世の不良なる紳士の假面者たりとも冷靜に自己を内省するとき必ず良心の苛惜が湧き返るべき筈である、自分が過去の半世は實に此の煩悶の生涯であつたのである。

併し唯僅かに其間に於て、獨り慰み得るものは事業遂行の爲めの僞惡であつた事である、肉身の辛痛を産み、友人知己の嫌忌を釀して來た事も充分承知して居る、けれども初一念を貫き所信の事業を達成するためには淺才非識の已れには他を歩むべき途を見出し得なかつたのであつた而も現代の人間社會が六善四惡を以て常態とすれば四惡は六善の犧牲であらねばならぬ、自分の過去は正しく將來の六善のために爲した四惡の犧牲的行動であつた事を信ずる、飽迄自己一個の榮譽豪侈を希ふためには非ずして社會國家の木鐸たる大任よりしての涙血の苦闘を續けた事を思ひば實に萬感胸に迫るものがある。

凡夫衆生を濟度すべき一大宗敎の發達史にも時の制度より觀たる六善四惡の涙がある、自分は敢てキリストや日蓮の教祖を以て已れを伍しようとは思はないが、彼此行動の態樣こそ異なれ其所に兩者間一脈の共通性を認むることを信ずるものである。

今や自分の初一念の半ばにさい到達せるものに非らざるも基礎の漸く見るべきものあり、此處に先輩諸君は不肖をして正解され溫かき情味に更生をより良く意義あらしむべく株式組織の事業を後援されんとするには深甚の謝意其の辭なきに苦しむ、自分はたゞ至誠以て熱の爲めに奮闘努力し一面我「磐城之實業」を益々發展せしむると共に新事業をして完全なる理想の域に達せしめて恩人の同情に酬へんことを期す。

銀行會社員職名便覽(二)

平銀行の部

職名	氏名
頭取	山崎與三郎
常務取締役	木村清治
取締役	堀江正直
同	高岡唯一郎
同	白井博之
常任監査役	新田目善次郎
監査役	安島重三郎
同	吉田禮次郎
主事	神谷辰五郎
同	端山正男
主事貸付	有賀幸太郎
同	小野才四郎
主事補出納	佐藤芳松
預金	吉田保壽
	松本健
	鳥海菊五郎
	山森正芳
	川角豊太郎
爲替	仲田良藏
	小谷義男
	端山輝
	大坪光夫
貯蓄	鈴木剛
計算	加藤勇吉
	蛭田利光
	河本龍
原町支店長	今村源八
	伏見芳夫
	高野之和
	佐藤源信
	大井正巳
	山森正保
浪江出張所	青田四郎
	上野五平
新山出張所	直木修
	渡邊龍雄
四倉出張所	鈴木武夫
	猪狩軍治
綴出張所	松崎德茂
	磯上重雄
湯本支店	小野金太郎
	鈴木源次郎
	佐藤金吾
	中野長衛
窪田支店	山本保
	有賀高義
	鈴木清介

本縣銀行電氣株式況

銘柄	拂込	仲値
磐城銀行	五〇、〇〇	五三、〇〇
福島農工	二〇、〇〇	二五、〇〇
同 新	一五、〇〇	一九、〇〇
百七銀行	五〇、〇〇	五一、〇〇
同 新	一三、五〇	一三、〇〇
三春銀行	五〇、〇〇	四三、〇〇
白河商銀	五〇、〇〇	四二、〇〇
本宮銀行	五〇、〇〇	四七、〇〇
同 新	一二、五〇	一三、〇〇
會津銀行	五〇、〇〇	五〇、〇〇
同 新	一二、五〇	二五、〇〇
二本松銀	五〇、〇〇	五五、〇〇
安達實銀	五〇、〇〇	五〇、〇〇
同 新	一二、五〇	二五、〇〇
郡山銀行	五〇、〇〇	五〇、〇〇
郡山商業	二五、〇〇	二五、〇〇
磐越銀行	五〇、〇〇	四〇、〇〇
同 新	一二、五〇	七、八〇
四倉銀行	一二、五〇	一三、五〇
須賀川銀	五〇、〇〇	四五、〇〇
信達銀行	一二、五〇	一二、〇〇
川俣銀行	五〇、〇〇	二八、〇〇
同 新	一二、五〇	一六、〇〇
百一銀行	五〇、〇〇	四〇、〇〇
同 新	二五、〇〇	一五、〇〇
磐東銀行	五〇、〇〇	五二、〇〇
同 新	一二、五〇	一三、五〇
磐城實業	三五、〇〇	三〇、〇〇
福島貯蓄	一二、五〇	一三、〇〇
福島商銀	五〇、〇〇	四三、〇〇
平銀行	五〇、〇〇	五五、〇〇
同 新	一二、五〇	一五、五〇
小濱實銀	五〇、〇〇	四〇、〇〇
田島銀行	五〇、〇〇	四五、〇〇
福島電燈	五〇、〇〇	五〇、〇〇
同第一新	四五、〇〇	四五、〇〇
同第二新	四〇、〇〇	四〇、〇〇
會津電力	五〇、〇〇	九五、〇〇
同 新	二五、〇〇	五五、〇〇
東部電力	五〇、〇〇	三二、〇〇
同 新	三〇、〇〇	五五、〇〇
二本松電	五〇、〇〇	五三、〇〇
同第一新	二五、〇〇	三六、五〇
同第二新	一二、五〇	一三、〇〇
諸戸川電	五〇、〇〇	五〇、〇〇
植田水電	一二、五〇	一四、〇〇
白河電燈	五〇、〇〇	四五、〇〇
四倉電氣	五〇、〇〇	六〇、〇〇
大沼電燈	五〇、〇〇	二〇、〇〇
同 新	二五、〇〇	一〇、〇〇
桑折電氣	四二、〇〇	三〇、〇〇
日東紡績	五〇、〇〇	三六、〇〇
福島羽二重	五〇、〇〇	六〇、〇〇
日本絹織	四五、〇〇	二、〇〇
飯坂電車	四〇、〇〇	二〇、〇〇

大野村會の不當決議 村長議員等の暴擧に村民の憤激其極に達す

石城郡大野村は先年甚敷く村治の紊亂を極めしより半年の久しきに渡り職務管掌(現縣事務官酒井吉人氏)の手に着々整理をなしたる事ありて此の不面目を恢復すべく門地高くして衆望厚く手腕力量に富み人格高潔なる木田織江氏を推擧し擧村一致和合は縣下有數の模範村と稱さるゝまでに至りしより氏は名譽の治績を遺し昨年十一月勤續三期を期として辭任したりしに其後二三の村會議員等村治を自己意の如く弄斷せんの計畫を以て溫厚にして寧ろお人好しの吉田盛治氏を村長に擡上げ日頃の野望を達すべく種々に畫策する處あり過般の村會に村長を強要して小學校舍の増築現校舍移轉等殆んど二萬圓を要する工事を起すに決議したり然るに現在校舍は敢て狹隘なるに非ずして只裁縫室の設備なきのみなるを昨今村財政に余裕なきをも考慮せず不急の五教室建設の如き無謀も極まれりと云ふべく其裏面には奇怪にも●議員中材木商を營む二三者●が手余り持合せの木材を片付けべき儲け策より案出されたるに至つては沙汰の限りなるより此醜怪事の消息を感知したる村民は憤激極度に達し村民大會を開催すべく寄々相談中とのことなるが該校舍建築案は村會召集狀には何等の告知なく開會中突如として提案せるものにして▲法▲令▲違▲犯▲不▲當▲決▲議▲の▲暴▲擧▲と云はざるべからず斯くの如き利權魔一派は吉田村長推選當時既に莫大なる運動金を懷中にせしめたるとの風評もあり同村將來は益々暗雲の迫るものあるものゝ如し。

十五年度出炭高

石炭聯合會發表に依る大正十五年度の全國出炭高は左の如し(單位噸)

福島縣	四、六〇六、九九四
北海道	五、七〇七、六〇七
茨城縣	一、五四九、六四九
福岡縣	一六、二四〇、五〇六
佐賀縣	一、四二一、九九一
長崎縣	一、六七八、七三〇
合計	二九、二三三、七四五

之を大正十四年度出炭高に比すれば四千八百噸の増加である。

強慾醫者

醫は仁術に非ず

醫は仁術なり仁術なるが故に尊しとは昔のことで現代ではこんな了見の持主は醫者仲間に見當らないのである、平南町邊に借家住して開業し居る○○と云ふ外科のデカタン醫者は金にかけては餓狼の其にも比すべき程の貪婪なきものでメスを持ず片手には必ず手術代なるマネーを掴まざる間は何ぼ苦しむ患者でも空うそぶいて冷かなる態度に治療金の前勘を要求して止まずとは嘘の樣な眞實の話で其の厚顔振りは昨今非常な噂であるがご當人は益々齒牙を發揮して不幸の赤貧者の懷中搾取に余念がないとは如何に惡化せる非紳士的デモ醫師であるかゞ窺はれるではないか。

運勢開進の一 數理の原則に依る 姓名判斷

諸橋元三郎氏談

平釜屋は千萬長者の勘定奉行として日に數千圓の賣上金を監査し居る元三郎君は富家の息とは受取れぬ程の砕け方一般商人のタイプで腰の底きこと今見守治氏と好一幅たり、近來頻る姓名學の修業に刻苦研究したる結果其の玄奥を極め百發百中の妙手を現し人助けのため專心これが普及に努力して居る希望する人は親しく訪ふてその判斷を乞ふべきであらう。

現今文明の世の中にいはゆる八卦なるものゝ恩澤を喋々と述べ立てたならばナニそんな事があるものかと一笑に附するものがあるかも知れないが從來の易者のいはゆる當るも八卦當らぬも八卦式のものでなく最も進歩したる數理に依りて姓名を判斷し過去及び將來の運命をトするものがありとすれば世人は一顧の煩を惜まぬであらう即ち從來の八卦はトする者が違へばいふ事も異つて居て甲の易者は幸運到來すべしとトし乙の易者はお氣の毒ながら不吉の兆があると見る故に兩者に依賴した人はますく氣迷ひを生じて遂にそのなす處を誤るに至るのである併し數理の原則に依つて行はれたる姓名判斷は見る人が幾人ありともその觀トには些の狂ひもないのであるから初めて豫言せられたる人はその當否を疑つて最初は高をくゝつてゐるがそのうちに身に覺があるやうに則々と適中するので十人が十人遂に兜を拔いで降參するそれは不思議な位である名は體を現すといふ古諺の通り親から貰つた實名は結構には違ひないが自分の運命を打開しやうとする者は何の手數がかゝる譯でもなく大金を要する譯でもないのであるから一應自己の運命をトして貰つてその適する方面に活躍するといふことは日進月歩の今日蓋し最も急を要する肝要事ではあるまいかしかしこの數理より割出した運命判斷は必ずや百發百中で決して間違えはないのである。

ポスト

▲百七七十七兩銀行支店の批判と片羽軌道の事業觀と[illegible]花柳界の五人男とは次號に報道することにする(編輯者)▲關内正一氏や諸橋元三郎氏等の友情に厚いには今時の青年紳士として實に感服せざるを得ないの意氣を以て商道に熱心なるのだから營業の益々發展するのも理の當然である(感心生)▲赤井村川瀬炭礦の隆盛振りには舌を卷かざるを得ない礦主幸治氏の奮闘努力がよく部下の坑夫にまで浸透して稼ぐに勝ぬ貧乏神は此の山ばかりは吹かないとのこと(實見生)▲近頃鎌田遊廓に通へ詰めて居る小學校の校長がある此の者の名は何と云ふのか。

ら●さ●な●か●つ●たどの事であるが專門家の話に依ると高壓線に水を掛けることは非常に危險なことであり怨苦は責任を免れる…るゝものでもないから益々味噌を付けざる内に今回の事件責務を負ふて辭職するのが賢明の措置と云はさるべからず。

…端に氏の顏が出ない事はなく隨つて名聲と其手腕とは認められて居る。

▼堀●部●留●造●氏 久之濱地方に於ける無くてならな…の美徳を發揮し萬事に角を立てない雅量のある處は惡化せる現代では一寸發見出來得ない人格を持…

…變れ給ひし姿…看護に努めし甲斐ありて日に日に癒ゆる其間眠りもやらす看護…痛々しくも…

潑剌たる意氣を持して

更生飛躍を期す

昭和聖代の初頭、櫻花正に開かんとす

…太郎商店

潑剌たる意氣を持して 更生飛躍を期す

昭和聖代の初頭、櫻花正に開かんとする春光に際し陣容を整へ編輯に新味を加へて讀者に見えんとする本紙!!! 混濁錯奏せる現社會に超然起ちて政黨の色に染まず、財閥に媚びず、唯一念時代の思潮に鑑み專ら地方啓發と振興に努力し、併せて腐敗惰落せる我政界の廓淸と沈滯恐慌の苦を嘗めつゝある經濟界の恢復とに資するを第一義とし以て俱に本紙の特色とす。

事業製造問屋の觀ある 磐炭會社幹部に辭職の意なきか

磐城炭礦は過般の勞働爭議に幹部と稱する連中の低腦振りを遺憾なく發揮して天下のもの笑を買つて遂には坑內の設備不完全極まる證左は一ハシタ監督官吏の不合理至極の**條件に屈從す**るの止むなきを見ても會社內容の程が窺はれて居つたのであるが又しても今回の大椿事の突發に百三十余名の生靈を坑內の鬼と化しめたる責任を彼等は如何に解決せんとするかゞ見物である、當時は報道機關を買收したとも噂されてゐるから兎角正鵠の批判を**聞くを得ざり**しが獨り民友紙の勇敢なる記事は一日付を以て左の如くたり即ち平檢事局は三十日殺人として發火當時の關係者鈴木惣吉を取調べたるに次の如に語れりと報せり

惣吉は發火した坪下枠取小屋の擔當で人道捲き錫引係をして居り同人は火災の消火に努めたが、とても與みがないので坑外に逃出し生命を取りとめた一人なので何處から發火し何が原因かは惣吉が總てを知つてゐる筈である同人が檢事局に於て申立てたところに依ると二十七日午前十時半頃停電の際事務の眞岡警務係から電話があつたので星野早雄といふ役員を交番所まで訪て行き往復三十分間位かゝつて來て見ると枠取小屋の高壓線のところから火が出てゐたのですぐに家に來て消火器を持つて行つたが消火器が破損した爲め今度はタンクの水を掛けたけれども切れてしまひ火はだんく擴がつて來たので止むなく逃たその際事務所に再三電話を掛けたが應援にも來ず非常汽笛も鳴らさなかつたとの事であるが專門家の話に依ると高壓線に水を掛ることは非常に危險なことであり惣吉は責任を免れるために高壓線から火が出たと云つてゐるものらしく實際は火は電氣行火から出たものと一般から見られてゐる併し電氣行火にしても設備が不完全であつたのなら會社に責任あり云々これに依つて見ても**急を報ずるの**手段方法を何等講せざるとは憎に會社は責任を免れないのである、斯くして幹部は規定以上の慰藉料金を家族に給與したから是で帳消であると涼しい顔付きで納つて居られた義理ではあるまい、今後も問題の**再三突發する**を見越して經濟上や思想上の鬪爭を解決するの手腕力量なきは勿論責任の觀念なき時代遲れの頭を以て勞資協調の干係など理解し得らるゝものでもないから益々味噌を付けざる内に今回の事件責務を負ふて辭職するのが賢明の措置と云はさるべからず。

銘酒の權威「小錦」 愛飲家を吸收するこのレッテル

品質佳良、而も芳醇な點で常に愛飲家を吸收して居る『小錦』のレッテルを冠する清酒が地方幾多の銘酒中より一頭地を拔いて斯界に權威を示しつゝある其の釀造元は石城郡は高久村の名望家鈴木喜太郎氏に依つて發賣され居るのである、由來上戸黨の癖として何んな立派な逸品でも地方酒は……と排さるゝが常なるに天晴銘釀の榮譽ある小錦は氏の令息喜平氏が磐中卒業後營々苦心努力の誇りである斯くの如く最純良優秀なる精酒を顧客に供給し得るは釀造設備の改善完備と喜平氏扼腕の研究心が絶えず活躍する結果にして同業者中に氏の指導を其の酒造倉に仕込中迭るもの常に數名ありとは愈々面目を表現し斯くなればこそ各地に於ける清酒品評會に優等賞の受領も當然なるべし。

奇々怪々內鄕信用組合 是果して眞實なりや投書は斯の如く報ず

有限責任內鄕信用組合は內容兎角の風評あり三百の組合員は組合長及專務理事を信せざるより是れが改選を斷行し帳簿整理に着手したる結果二千四百余圓の行衛不明あるを發見し其の善後策を講ぜんとするも役員の多數は何等かの利潤あるものゝ如くにして一般組合員の利益を計らず然も此の不始末者に對し前後二回に慰勞金の名目を以て五百余圓を與へたるは頗る奇怪と云ふべし。

消息欄

▼戶田兵藏氏　四倉銀行の專務たる氏は四倉町の所謂大御所で有志家中での第一人者である地方萬端に氏の顏が出ない事はなく隨つて名聲と其手腕とは認められて居る。

▼堀部留造氏　久之濱地方に於ける無くてならない人物で財界と云はず事業界を論せず氏が關係せねば問題とならない處に其の力量と人格とが嚴然として輝いて居るのではあるまいか。

▼阿部政右衛門氏　平町の青年紳士として立派な人格の所有者で常に謙讓の美德を發揮し萬事に角を立てない雅量のある處は惡化せる現代では一寸發見出來得ない人格を持て居るとは敬服に値すゑ

▼鈴木源藏氏　磐城實業銀行の支配人たる氏は一面頗る四角四面の生眞面目の觀はあるがあれでよく話し込んで見ると頗る面白い然もなかく悴な處もあり溫味もあつて永遠性の交際家である。

ポスト

▲百七十七兩銀行支店の批判と片濱軌道の事業觀と花柳界の五人男とは次號に報道することにする（編輯者）▲關內正一氏や諸橋元三郎氏等の友情に厚いには今時の青年紳士として實に感服せざるを得ないの意氣を以て商道に熱心なのだから營業の益々發展するのも理の當然である（感心生）▲赤井村川瀨炭礦最近の隆盛振りには否を卷かざるを得ない礦主幸治氏の奮鬪努力がよく部下の坑夫にまで浸透して稼ぐに勝てぬ貧乏神は此の山ばかりは吹かないとのことさ（實見生）▲近頃鎌田遊廓に通へ詰めて居る小學校の校長があるとの噂がもるがさて此の者の名は何と云ふのか。

福島電燈	五〇,〇〇	五〇,〇〇
同第一新	四五,〇〇	四五,〇〇
同第二新	四〇,〇〇	四〇,〇〇
會津電力	五〇,〇〇	九五,〇〇
同　新	二五,〇〇	五五,〇〇
東部電力	五〇,〇〇	三二,〇〇
同　新	三〇,〇〇	五五,〇〇
二本松電	五〇,〇〇	三二,〇〇
同第一新	三五,〇〇	三六,五〇
同第二新	一二,五〇	一三,〇〇
蒲戶川電	五〇,〇〇	五〇,〇〇
植田水電	一二,五〇	一四,〇〇
白河電燈	五〇,〇〇	四五,〇〇
四倉電氣	五〇,〇〇	六〇,〇〇
大沼電燈	五〇,〇〇	二〇,〇〇
同　新	二五,〇〇	一〇,〇〇
桑折電氣	四二,〇〇	三,〇〇
日東紡績	五二,〇〇	三六,〇〇
福島羽二重	五〇,〇〇	六,〇〇
日本絹撚	四五,〇〇	二,〇〇
飯坂電車	四〇,〇〇	二〇,〇〇

薩摩琵琶敎壇の落花

石城郡赤井村殉職訓導田久彌七氏令孃ミ井子訓導の殉職は敎育界至誠の權化として吉岡獨歩氏作に敎壇の落花と題し薩摩琵琶は左の如し。

甘泉殿の春の夜の夢燃ろかす夜半の風
若木の花のの若櫻果敢なく散りし無慘さよ
噫世は夢か幻か涙を誘ふ村時雨
乾く間なき小夜衣嘆きに袖の朽ちぬらん
茲に哀れをとゞめたる殉職訓導田久女史
其名はミ井子と稱されて治まる御代の德風も
福島縣は石城郡閼伽井の岳の麓にて
君と國とに捧げたる赤き心の赤井村
其の赤心を三島なる由緒正しき田久家に
生の曙迎へしが振分髮の頃よりも
實に栴檀は二葉より芳しき名を傳ひつゝ
學びの道を一と筋に心の駒に鞭うちて
次々學ぶ學校に螢の光窓の六花
光陰惜しみて怠らず勉め勵みし幾星霜の
宿願は今ぞ果されて訓導とこそ仰がれつ
安達の田村の二郡の片山里のこの小學校や
敎育の鞭を執り初めつ朝夕懷く學び兒に
村人達に殘したる厚き情を記念とし
去んぬる大正十づまりの五つの年の五月
心も空も晴れやかに錦を飾る古鄕に
遂くもあらぬ磐崎の第二尋常小學校
榮轉なして受持てる三學年の學び兒を
我が弟妹とも我子とも思ひなしてぞ慈しみ
倒るゝ迄は勤めんと深く心に盟ひつゝ
盡す至誠ぞ貴とけれ申すも畏きことながら
大正天皇神去りて九重の深く鎖したる
愁ひの雲に國民も涙に曇る十二月
第二學期を終りてぞ晦日近く古鄕の
我が家にこそは歸りしに病みて在はする兄上の
窶れ給ひし姿情に帶をも解かず幾夜さを
看護に努めし甲斐ありてさしもに重き兄上も
日に日に癒ゆる其間に學期始めは近づきぬ
眠りもやらず看護たる看護疲れの面影の
痛々しくも窶れしを見るにつけても弟妹が
休養しかしと引止むる振の袂を振り切りて
倒るゝ迄は勤めんと昭和貳年一月
我家を離れし七日こそこれが此世の別れぞと
神ならぬ身の悲しさに知るよしもなき哀れさよ
かゝるべしとは白雪の八日の學期始めこそ
父母同胞の身にとりて涙の乾く間もなき
追憶多き惡日よ其時田久訓導は
常に變らず敎席に學び兒達を見やりつゝ
熱誠籠る聲音にて昭和の御代と國民の
責務を語り聞かせしに先生お伽噺をと
強請むを無下に捨てかねてはしませうと續けたる
話の興にあごけなく喜こぶ態を打眺め
もうお噺はお終ひよさあお掃除をしませうと
學び兒達と諸共に微笑みながら敎室の
掃除にかゝり敎壇へ足踏みかけし一刹那
俄に迫る身の病と倒れて崩折るゝ
あれ先生が御病氣と取り卷きわめく學び兒の
爲すべき術も白檀弓引かれて來る人々が
醫者よ藥よ看護よと心盡くしのかずくも
終に詮方泣くばかり玉の緒斷れて束の間に
冷えゆく屍にひしくと縋りつゝ先生よ
田久先生先生と聲を限りに泣き叫ぶ
世にいちらしき眞情も呼べど應へぬ亡き魂は
今宵は何處に宿るらん愕き惑ふ人々の
悲嘆にくるゝ雲曇り落つる涙はさながらに
屍も浮かんばかりなり天命是か非か知らねども
倒るゝ迄は勤めんと日常盟ひし言の葉を
全うしてぞ天職に殉せし田久訓導よ
超えて九日の校庭に世にも稀なる校葬を
いと嚴かに營みて精靈の前にさめぐくと
濺ぐ涙の手向草其亡魂は學校に
停まりながらも遺骸は學び兒達に送られて
再び歸らぬ校庭をしづく出る夕間暮
其故鄕の田久家の世々の祖先の墳に
長久の永眠に入りつるも職に殉せし眞情は
萬代かけて語り繼ぎ夏井の川の川水の
盡きぬ流に譬ふべし盡きぬ流に譬ふべし

磐城セメント販賣所は!!
磐城特約代理店 平町五丁目
諸橋久太郎商店 電話三五六番 振替口座東京一〇九九一九番
金物 洋物 銅鐵 問屋 サンベルト
◇良品廉賣に勝る商略なし!!!
◇能率敏捷は㊇の生命なり!!!

コサック萬年筆本舗
天地堂
（平町三丁目磐銀西隣）
日蓄特約店、蓄音器の特價提供も天地堂なり

つたや旅館
親切、勉強は御來客樣の一言にて證明さるゝ
常磐線平停車場前

銀なべ
牛鳥肉料理
石川亭
平町田町電話四三番

內科。外科。婦人科
小兒科。花柳病科
磐城病院
平町田町本通り
電話一一四番
入院隨時

川瀨炭礦常磐鑛業所
福島縣石城郡赤井村
◇採炭豐富にして塊粉共に如何なる大量取引にも應ずべく候
◇又小量の御注文にも勉强仕るべく候
◇貨車の發送は平郡線赤井驛にて配給車は敏速に手配準備致すべく候

磐城の天地に大關心事たる

無産階級政治運動

如何に伸展せんとするか

河北新報平支局長　横山顯

石城の天地に既成政黨鎬を削つて戰つて來たか金城湯池とする政友會の牙城も野猪的な憲政會の突撃によつて幾分の切崩しをされたかの觀があつたがそれは皮想な考へ方であつて牢固たる財閥を基幹とする政友會にとつては何等の力もなかつたことを選擧終了後の社會相によつて見る事が出來る。

憲政會の勝利は場當りの猿芝居に大向ふが無智な拍手を送つたに過ぎないと云ふあはれな結果を生んでゐることは照々として白日下に暴露した氣の毒な姿である。五十二議會は可成り泥投げ合戰としては技巧的であつた。

憲政會は内閣カジリ付きの執着から一歩も新生面を開拓しやうともせず、子供だましのやうな考慮と云ふ二字で政友政本二派を綴り飴細工の樣な政策で愚劣な一場面を演出してゐることは如何に憲政會内閣が行き詰つてゐるかと云ふ事を國民の前に告白したも同樣ではあるまいか。

政友本黨は政友會と憲政會との中間に居して兩黨の弱點を把握し巧みに策動の使い分けをして漁夫の利を占めやうとしてゐたことは之亦既成政黨根性を赤裸々に曝け出したものである。

硬骨を以て鳴る原總裁逝いて以來高橋ダルマ首相は護憲三派で味噌を付け、田中總裁は維新當時の志士氣取り、亦武士が小商人となつた樣なぶざまなやり方をしてゐるために政友會は在野黨としての氣魄を失ないその統制が亂れてゐるばかりでなく現内閣の弱腰を突く事すら出來ない不甲斐ない狀態におかれてゐる斯の如くして本質的に既成政黨は墮落し立憲常道の精神を沒却し唯徒らに議會政策の團滿を希ひ内閣の乘つ取り策以外に何等の國民的政權綱領を把持しない事はまことに遺憾千萬である。

今や七千萬國民は鞭をあげて落日の彼方を指さし既成政黨沒落の一場面を糺彈してゐるのではないか？それのみではなく國家的危機であるとして涙を振つて既成政黨の墮弱を嗟嘆久うしてゐるではないか……。

此のとき現代の必須の努力として生れた各種の勞働運動が燎原の火の如く全國を席捲しその思潮は各府階級の勞働者に浸透し無産大衆は自覺の黎明から手を握つて生活改善の一歩を進出し強固なる勞働團體は力と熱とによつて資本階級の牙城にヒタ寄せたのである。

我が石城郡に於ても昨年七月二十日内鄉村磐城炭礦に於て日本坑夫組合の赤旗の下に無産大衆運動が猛然として捲き起つたのである。常磐三萬の勞働者諸君は必死となつて搾取階級の鎖から解き放されやうとしてもがき苦しみながら遂に資本家が永久のものとしてウヌ惚れ切つてゐた奴隷の鐵鎖は見る〳〵うちに斷ち切られた。あの悲壯なる大衆の叫び、敢然として猛い起つた英雄的行爲がかくして常磐炭礦界に巨鐘が鳴りとゞろき小田、古河、磐城、入山、藤原等に有力なる日本坑夫組合の各支部が凄慘な產みの苦しみをなめながら生れ出でたのである。

そして一度は小田炭礦と戰へ再びは常磐炭界の盟主としてウスボレテゐた磐城炭礦の鼻柱を蹈み碎き、三度び戰はずして入山炭礦を軍門に降伏せしめ遂に常磐炭界の資本階級に無產大衆の團結たる坑夫組合は確立したのである。

勞働者團結を直前に見た資本階級は驚異の眼を見張つて戰慄しあらゆる黄金萬能の夢に浮かされ陋劣なる手段と術策を弄し或は報道機關を買收し或は暴力團を雇入れて虚勢を張り反動團體を造つて徒らに勞働者の仲間喧嘩をさせその他の手段を選ばざること餓虎の如き勢を示し一擧にして坑夫組合の存在をくつがへさんとした。

然し人間が人間としての正しい自覺から生きやうとして戰を宣した無產大衆の力を、どうすることも出來なかつた、勞働者が永い間の搾取から逃れて勞働者の諸君が人生にはつきりと自己をみつめて自主權を獲得しやうと立ちあがつたその力と熱とは、あまりに根强く、あまりに眞劍であつたために無能な資本階級は今更ながら愕然として驚倒されたのである。

而して眼前に匕首を突きつけるが如く勞働條件を提出して對策的地位に立つたのである、然し現在の勞働運動は無產大衆の鬪爭的過渡期に於ける經濟的鬪爭であつてその何れもが政治的色彩をおびては居らない。之れに反して資本階級は無產大衆の擡頭し來れることに恐怖し殊にその勞働者自體が無智であり政黨の背景を有せざるを奇異として政治的壓迫を加へ出したことは明らかなる事實である。

或は健康保險法であるとか、暴力行爲等の處罰法であるとかその他色々の方面から政治的の力を以て押し詰めやうとしてゐることは可成り露骨な態度で現はれてきてゐる。

こゝに於てかその政治的勢力に對抗すべく無產大衆を基調として日本勞働農民黨が生れたのである、勿論その他の二三無產政黨の出現はあつたがそれは省略して我が常磐炭礦界に三萬勞働者を中堅として日本勞働農民黨常磐支部が生れ既成政黨の鼻先きに戰線を張り無產大衆の昂然たる勢力を示そうとしてゐるが之れによつて磐城の政爭も新らしい場面と展開された眞劍さを見ることが出來る事であらう事を斷言してはばかりないものである。

既成政黨が獨占場であるかの觀があつた選擧場裡も不本意ながらも發布された普通選擧法によつて七千萬の無產大衆は政治に參與する事が出來る樣になつたことは立憲政治の常道より！して甚だ欣快に堪へざるものがある。

國民の一人が國家を構成する一分子なりとせば嚴密なる意味に於て普選にあらざればその政治は全く正しいものと見ることが出來ない、政治が無產大衆の生活を離れて何の意義を有する事であらう、實際生活即政治、政治即實際生活が社會國家の大平となる事に於て始めて政治の有終の美をおさめる事が出來るのである

今秋九月全國的に執行される府縣會議員選擧の火蓋は一齊に切られるであらうが我が常磐炭礦界をバックとして生れた日本勞働農民黨の初舞臺がされ程の力を示すかは別問題として經濟鬪爭から政治鬪爭へと轉回しつゝある勞働運動の趨勢は沒落の一途をむへきながら歩みつゝある既成政黨が如何なる感を抱くであらうか、そして亦此の近代的所產の團体が磐城の天地に於て如何なる形となつてのびて行くかは興味ある一つの宿題としてのこされた大きい問題であらねばならない

春來らんとして萬生は動く、感想を述べて大和田兄への責をふさぐ。（了り）

共產主義より國民主義へ！（上）

嗚呼無產大衆を欺く賣國奴　嚴々乎として彈壓すべき也

（ミリタニズム生）

もし、わが日本の無產大衆を糾合し、その人心を收攬して○○を起し得るものとするなれば、それは明かに皇室と國家とを無視するにあらずんば能はざる一大運動である、而して愛國心の熾烈なるわが日本の無產大衆が皇室を無視し、國家を無視するこの一大運動に衆して參加するや否やは洵に興味ある問題といはねばならぬ。

無產黨の使命

近來澎湃として漲り來れるいはゆる無產政黨の運動は何を物語るものであるか彼等は無產政黨の眞の目的とする○○を起すことは實に容易ならざるものあるが故に暫らく名を議會政治の改革に藉り、普通選擧實施の機運に乘じて帝國議會に發言權を占めんとしつゝあることに一般國民は最大の注意を拂はねばならない。殊に一般國民よりも直接關係にこれ等の徒輩のために籠絡され誘惑されつゝあるところの無產大衆は尚一層の注意を拂ふことを夢寐にも忘れてはならぬ。

憂ふべき傾向

然るに事實は如何、わが石城の天地に例を取る。わが石城の天地における無產大衆は今や物の響きに應ずるが如く近來擡頭し來れる無產政黨の甘言好餌に釣られて續々と入會者を出しつゝあるが如きは洵に憂ふべき傾向なりと言はざるを得ない。

非常識な學者

われ等はわが日本の思想界が今尚ほ唯物主義を謳歌し共產主義に左右されつゝあるのを悲しむ。而してかゝる思想を世界の大勢なりと疾呼し無產大衆をして迷はしめつゝあるのを憫らざるを得ない、しかも斯くの如き邪説を最高最新の學說なりとしてわが日本の思想界を毒しつゝ恬然恥らざる學者等の非常識を笑はざるを得ないのである。

世界思想の動き

共產主義より國民主義へ！われ等の信ずべき學者が最近頻りに漏らしつゝある世界の思想界の動きは既に共產主義廢れて新たに國民主義の勃興し來れるを語りつゝある、而して唯物主義の謳歌されつつあるは只ロシアとわが日本のみ。

淺薄な奸手段

即ち知る、唯物主義を云々し共產主義を唯一無二の思想なりとして鼓吹しつゝある學者はこれ世界の大勢を知らざる机上論者であるこれ等の徒、相謀つて無產政黨を產み出し或は陰に陽にその擡頭を援けつゝあるしかもその眞の目的は社會○○にあり、しばらくその標榜するところを議會政治や經濟鬪爭に置くが如きはその淺薄なる奸手段に呆れざるを得ぬものあり而してこの種の徒輩の眞意を知らずして附和雷同する無產大衆の浮薄なる心理洵に憫れむべきである。

愛國心を養へ

然れども無產大衆の無智無識に乘じてこれを僞惘しその純良なる心理を蠱毒して自己の野望を遂せんがためにこれを手先きとして惡用せんと企つるが如きはその罪斷じて赦すべからず、われ等は飽迄も彼等の前に戰線を張り斷乎として抗爭せざるを得ないのである、これわが日本帝國擁護のためであり、愛國心熾烈なる無產大衆をして想はざる汚名を蒙らざらしめ純良なる心理を毀けざらしめんがために外ならぬ。

ロシアの手先

看よ、彼等の徒、多くはロシアの手先きとなつてわが日本を撹亂せんとして運動費を受授し、或は米國心粹の余りその手先きとなつて國を賣らんとしてゐる、即ち米、露の援助を受けてわが日本に○○を起さんとする徒輩の存在漸く多きを加へ來るの現狀を見ては誰か慄然としてわが日本の將來に憂ひを抱かざるを得ざるものあらう。

紫の朱を奪ふ

われ等は斷言する、この種の運動に參加するもの多くは糞土の墻多しと、而して紫の朱を奪ふ徒輩のみ、若し夫れかくの如き徒によつて社會○○をわが日本に斷行さるゝが如きことあらんか、或は惧る、われ等の夢想だも爲し得ざる振天動地の一大事變を誘發し、しかもこれを指揮するもの多くは赤露より來るなきやを

これ今日の無產政黨の或る一派が絶えず勞農ロシアと相策應し、運動資金を受けつゝ「ロシアはわれ等の墳墓の地なり」と口にし居るが如き徒輩あるに至つては實に驚かざるを得ない。

資本主義に改宗

マルクスの高弟を以て自稱するソヴエットロシアのレーニンは國民をして極端に貧窮ならしめた、大饑饉を導いてその同胞民族一千余萬を斃した、レーニンはマルクスを信じてこれを實行したりと公言しながらしかも彼れの自信は永遠の信念なる能はず大正十二年一月一日から俄然舊式の資本主義に改宗した、即ちレーニンの爲せる所は經濟政策としては全然失敗に歸した主義者としても失敗した外交はゼロ、ただ極端なる軍國を作り絶對專制を作り、探偵政府を興せるにおいて成功したるのみ。

何等の皮肉ぞ

今日のロシアは富めるプロレタリアと貧しきプロレタリアの對立を見るモスコーにおいては投機商のプロレタリアは自動車で市中を驅けまはり劇場に出入し酒池肉林の宴を張り一日に幾十億の浪費を爲す、これに反し職業なきプロレタリアは一片のパンを得るにすら困難す、これ過激派のいはゆるプロレタリアの平等と稱するものである、何等の平等、何等の皮肉ぞ然も我國に於ても貴族的職業勞働運動者あり、彼等が常時云ふ所謂搾取を弱き勞働者の懷中を以て高等生活の資本となし居るとは……。（續）

本紙の主義信條

●紙は本社の私有にあら●社會共有の公的言論機關也●に紙面を開放して何人の爲めにも

●其利用を快諾し特に主として實業界の機關となり努めて實益を主限とす

●本紙は絶對不可侵の權威を以て論議公正にして愚劣無價値の記事を採らず磐城地方唯一の實業機關たるの本領を發揮す之本紙の使命也

大正十四年…第三種郵便物認可
每月（二回）十日二十日發行
發行兼編輯 印刷人 大和田與平
發行所 磐城之實業社
電話五二二番
一部金八錢郵税共

記」の時姬も同じ思ひに惱んでゐますこんな例を擧げますと殆ど際限がないのであつて時代物でも殊に若き

こを常の道としてゐるのでありますから夫が自分と共に死ぬるといふ場合は固より何の怨みもあるべきでは

て山家屋へ嫁しづく事を勸めると「女の道を背けとは聞えぬわいの胴慾な」などと我儘な女の道を並べて

のに女をして萬事玩弄物視するとは不合理も甚だしい事であります「千本櫻」の惟盛卿は「某は國に殘せし妻

す「白石噺」の亡八の詞の通り「この里に來る奉公人に親孝行か夫の爲でないものはない」といふのが淨瑠璃

ますがこれ等も亦近れの戀愛至上主義と合致します心擾でせう義太夫の作者が描いた女性觀が概略左のやう